

淡路地域ビジョン2050

【概要版】

- 第1章 地域ビジョン策定の趣旨
- 第2章 社会潮流
- 第3章 淡路地域の現状と課題
- 第4章 淡路地域の魅力と可能性
- 第5章 淡路地域がめざすビジョン
- 第6章 淡路地域ビジョン2050の目標
- 第7章 ビジョンの実現に向けて

第1章 地域ビジョン策定の趣旨

背景

- ▶ 淡路地域ビジョンの策定から20年、改訂から10年が経過
- ▶ 少子高齢化、人口減少社会の進展
- ▶ 技術革新の急速な進歩
- ▶ 新型コロナウイルス感染症による働き方や生活様式の変化 など



ビジョンの概要

- ▶ 住民や地域のなりたい姿（理想の将来像）を描く
- ▶ 住民・事業者・地域団体・企業など、多様な主体が共になりたい姿を実現するための道しるべ
- ▶ 今の子どもたちが活躍する2050年頃を展望

第2章 社会潮流

人口減少・超高齢化

- ▶ 総人口の減少
- ▶ 人口の偏在化
- ▶ 超高齢化

自然の脅威

- ▶ 気候変動
- ▶ 災害の危機

テクノロジーの進化

- ▶ 未来のテクノロジー
- ▶ データの最大活用

世界の成長と一体化

- ▶ 大きくなる世界
- ▶ 一つになる世界

経済構造の変容

- ▶ デジタル化の進展
- ▶ 新たな経済のかたち

価値観・行動の変化

- ▶ 価値観の多様性
- ▶ 固定から流動へ

第3章 淡路地域の現状と課題

社会の現状と課題

- ▶人口減少・少子高齢化
- ▶若者の流出と減少
- ▶空き家の増加
- ▶コミュニティの縮小
- ▶伝統芸能・文化の後継者不足
- ▶孤立者の増加
- ▶再エネ施設の老朽化
- ▶交通
- ▶福祉

経済の現状と課題

- ▶地域産業を取り巻く環境
- ▶雇用・就労
- ▶情報通信環境の高度化
- ▶エネルギーの有効利用

環境の現状と課題

- ▶自然災害への対応
- ▶山林、農地の荒廃
- ▶放置竹林の増加
- ▶海の水質環境
- ▶淡路島らしい景観や風景の喪失
- ▶社会インフラの維持管理

第4章 淡路地域の魅力と可能性

立地と交通

- ・本州、四国と橋で結ばれた都市近郊の島
- ・陸、海、空のあらゆる空間が交通のメインストリートに

食とエネルギー

- ・古来「御食国」と呼ばれ、豊かな食の島
- ・自然エネルギーを生み出す環境
- ・脱炭素社会のモデル地域に

歴史と伝統文化

- ・他の地域にない歴史（国生みの島）
- ・淡路人形浄瑠璃や地域に根付く祭り

自然の恵み

- ・山、川、海に囲まれた多自然地域
- ・温暖な気候と生物多様性

人柄

- ・温厚で優しい気性、人と人のつながりが濃密
- ・近所付き合いが盛ん（おすそわけの文化）

第5章 淡路地域がめざすビジョン

基本理念

人と自然の“環”が広がる淡路島 ～「はじまりの島」からはじめらんか～

これまでの淡路地域ビジョンで掲げてきた“環境立島”の理念を継承し、人と自然の良質な関係が環となって広がり、誰もが安心して暮らし続けられる環境豊かな島をめざします。

また、日本の「はじまりの島」から新たな取組や挑戦が生まれ、未来に向かって発展し続ける島をめざします。

目 標

目標1 持続可能な暮らしと環境の島

目標2 食とエネルギーを生み出す島

目標3 危機や災害から生き残る島

目標4 観光客や移住者と共に発展する島

目標5 全ての人が誇りを持って生きる島

第6章 淡路地域ビジョン2050の目標

目標1 持続可能な暮らしと環境の島

快適さと環境が両立した
便利で暮らしやすい島づくりと
地域が活力にあふれた
持続可能な暮らしの実現

将来像

- 地域資源を活かした脱炭素社会が実現
- 移動に困ることのない便利な田舎暮らしが実現
- 地域産業が活性化し、安定した雇用環境により地域内経済が循環
- 立地や豊かな自然環境を活かし、「職・住・遊」がまるごと楽しめる働き方が実現
- 伝統文化や祭りなどが受け継がれ、地域と人がつながりを持ち続けている社会

目標2 食とエネルギーを生み出す島

農畜水産業の持続的な発展と 温暖な気候や恵まれた立地環境を活かした 再生可能エネルギーの創出により 食とエネルギーが持続的に循環する島づくり

将来像

- 多様な就農形態により地域の農業が支えられ発展
- 豊かな海が再生し、漁場環境の整備、養殖技術や栽培技術の向上などによりおいしい魚が流通
- 1次産業のスマート化で、生産性向上・担い手確保・技術継承など農畜水産業が発展
- 地域や家庭において再生可能エネルギーの創出が進み、島内でエネルギーが循環
- 地産地消が、人々の健康と淡路島の食文化を支え、食料や資源を大切にする社会が実現

産業・スマート化・エネルギー

目標3 危機や災害から生き残る島

これまでの災害の経験や教訓を活かした 災害に強いまちづくりと 自助・共助・公助の連携によって 災害に適応できる島づくり

将来像

- 防災インフラの整備など、災害に強いまちづくりによって誰もが安心して暮らせる社会
- 防災意識が高まり、コミュニティの共助などによって、地域で危機に備えられている社会
- AIやロボット、ICTなどデジタル技術を活用した高度な防災環境が整っている
- 森・里・川・海の自然環境が防災・減災に活かされ、自然と共存するまちづくりが形成
- 災害が発生しても島が孤立することなく、いち早く復興できる力が備わっている

防災減災・地域防災力・復興力

目標4 観光客や移住者と共に発展する島

地域独自の資源を活かした観光業の発展と
移住や何事にもチャレンジできる環境をつくり
地域住民・観光客・移住者が
多様な形でつながりを持ちながら発展する島づくり

将来像

- ▶ 自然とリゾートが融合した観光地として国内外から多くの観光客が来島
- ▶ 海上交通の発展や2次交通の充実など、島内の周遊環境が整っている
- ▶ 歴史や伝統芸能と通じて、国内外の人々の交流が深まっている
- ▶ 移住環境やチャレンジできる環境が整い、働き方や暮らし方に多様な可能性が広がる
- ▶ 地域内で交流の場が広がり、移住者も地元住民も共に島の暮らしを楽しんでいる

観光・交流・移住

目標5 全ての人誇りを持って生きる島

個人の価値観が尊重され、年齢、性別、障害の有無
国籍などに関わりなく活躍する場が広がり
自分自身の生き方や地域に
誇りを持って生きることができる島づくり

将来像

- 第二、第三のライフステージの場が広がり、生涯現役で活躍する高齢者が増加
- 地域の人々が共に支え合う関係が大切にされ、安心して暮らせる地域社会が実現
- 家庭や地域が一体となって子どもの成長を支え、安心して子育てができる地域
- 個性を伸ばす教育で、多様な価値観と地域への愛着と誇りを持った心豊かな子どもが育つ社会
- 古き良き時代のコミュニティが復活し、人々が助け合う優しい地域社会

健康・福祉・子育て・教育

第7章 ビジョンの実現に向けて

